

◇ 大朝日岳

2018年7月29日(日)～30日(月)

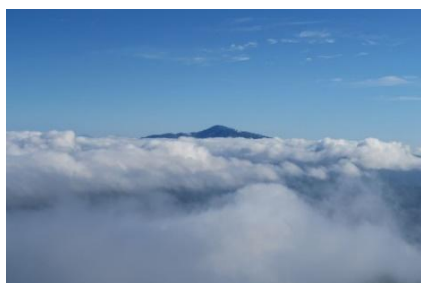
岡本単独

ここも昔から一度行って見たかった処だが、遠いので中々機会がなかった。体力も落ちてきているので、今登らないともう登れなくなると思い、漸く決行。今年の夏山は特に暑く、少しでも荷物を軽くしようと、一番楽そうな古寺鉾泉からの日帰り計画。地図上アップダウンが少なく、昭文社のコースタイムは登り5時間50分、下り3時間45分、更にコース上に水場が3カ所あり、これも安心材料だ。ただ、登山口まで800km余り、10時間程度掛かるので前泊する。

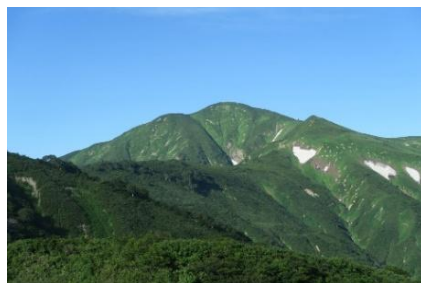
朝、5時10分前、小屋を出る。尾根まで急登になるが、さほどきつい登りではない。朝からのかんかん照りも、尾根は樹林帯で直射日光を避けられ、助かる。が、山形や酒田辺りではフェーン現象で昨日も35度を超えており、今日は更に暑いとの予報、風も殆ど無く、朝だというのに涼しさは感じられない。登山道は、所々急な箇所があるだけで、コースは歩きやすい。一服清水に着くが、タオルだけ絞って先へ行くと、直ぐに日暮沢からのコースの分岐に着く。



(古寺鉾泉朝陽館)



(尾根から月山)



(古寺山から大朝日岳)



(古寺山から小朝日岳)

なだらかな上り坂を暫く行くと、徐々に道が険しくなる。そうは言っても大した登りではない。

40分弱で三尺清水に着く。ここは水量が少なく、あまり飲む気のしない水だ。そこを過ぎ、急な坂を暫く登ると少し視界が開けてくる。すると、眼前に雲海に浮かぶ月山が綺麗に見える。そこから直ぐに古寺山に着く。ここで初めて朝日連峰の山が見渡せるようになり、大朝日岳から龍門山の稜線が綺麗に見える。暫く休憩を取り、景色を楽しむ。

古寺山の次は小朝日岳だが、ピークを避けるトラバースコースがある。まだ元気のある時間帯なので、頑張って百数十mを余計に登る。小朝日岳の山頂は360度のパノラマで、周辺の山々が一望でき、大朝日岳の絶好の展望台だ。天気良ければ少々の上り下りは我慢し、是非登っておきたい場所だ。

山頂から暫く滑りやすい急な坂道を下る。15分ほどでトラバースコースに出会い、少し下った後は樹林帯を抜け、尾根コースになる。コースから大朝日岳がよく見え、風も少し出てきて、元気が出てくる。高山植物もちらほら見えてきたところで銀玉水に着く。これは雪溪の伏流水の感じで、冷たくて水量もあり、上手い。小屋の管理人は、大朝日岳の少し下にある金玉水より遙かに上手い



(小朝日岳から大朝日～龍門岳)

水だと言っていたがそれだけのことはある。

ここからは少しきつい登りになるが、景色も良く、適度な風と高山植物が、登りのきつさを忘れさせてくれる。やがて道はなだらかになり、西朝日岳からの稜線コースも見えてくると、山頂手前の避難小屋に着く。暫く休み、10数分歩くと山頂だ。360度の大パノラマで晴れやかな気分になれる。東側が少しガスが上がってきて、蔵王方面がはっきりしないが、飯豊連峰や朝日連峰の山々の展望が素晴らしい。山頂は1870m程だが、雪渓も適度な風もあり、日に照らされていても暑く感じない。やはり来た甲斐があった。

山頂を後にした頃からガスも晴れ、かんかん照りの強い日差しになり、気温もどんどん上がり、熱中症になりそうな気分だ。帰りは小朝日岳のトラバースコースを取ったが、暑さの為思うように足が進まない。ここで、カフェラテのペットボトル500ccを一気飲みする。下では滅多に飲めないが、ここでは適当な糖分と水分の補給ができ、

暫くすると徐々に元気が回復する。途中、古寺山で最後の景色を楽しみ、後は一気に下る。途中少しへばりペースは落ちたが、下山した頃には元気が回復してきた。小屋に着いたときはまだ1時20分で、今から、暑くて、虫も多く、大して冷えていないビールを飲んで連泊する気にもなれず、直ぐに荷物をまとめ駐車場まで、300m程の道に行く。後は、ひたすら家まで車で走り続ける。



(大朝日岳への稜線、正面西朝日岳)



(大朝日岳山頂)



(大朝日岳から西朝日～龍門岳)



(大朝日岳から飯豊連山方面)



(稜線直前のニッコウキスゲ他)



(大朝日小屋付近のお花畑)



(ミヤマユキウスソウ)

行程:4:50 古寺鉱泉→6:10 ハナヌキ峰分岐→7:00 古寺山→7:35 小朝日岳→8:40 銀玉水→9:05 大朝日小屋→9:25 大朝日岳山頂 (20分休) →10:10 銀玉水→11:35 古寺山→13:20 古寺鉱泉